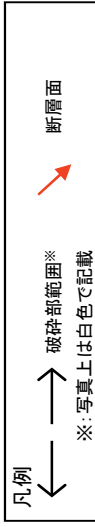
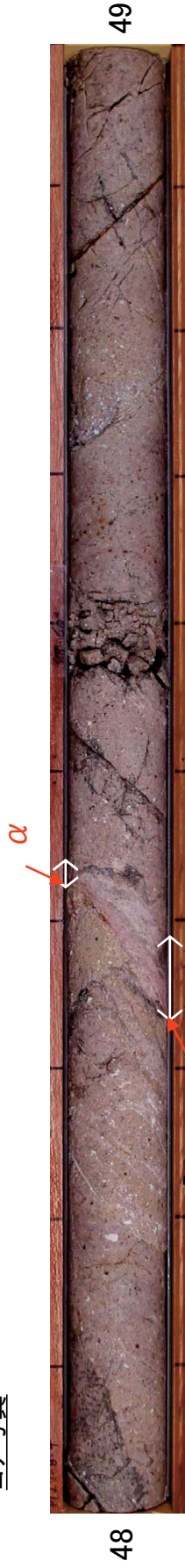


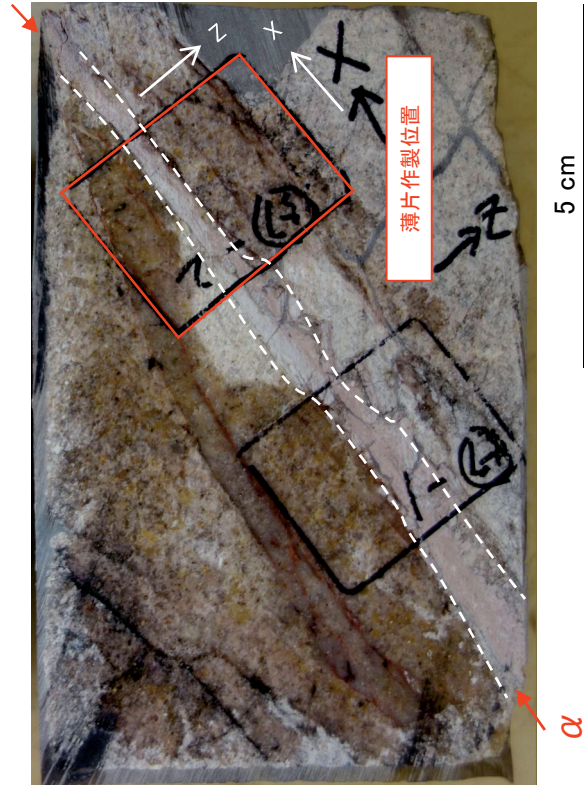
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

コア写真



薄片作製位置写真



x: 条線方向(下向きを正とする)
z: 断層面の法線方向(上側側を正とする)

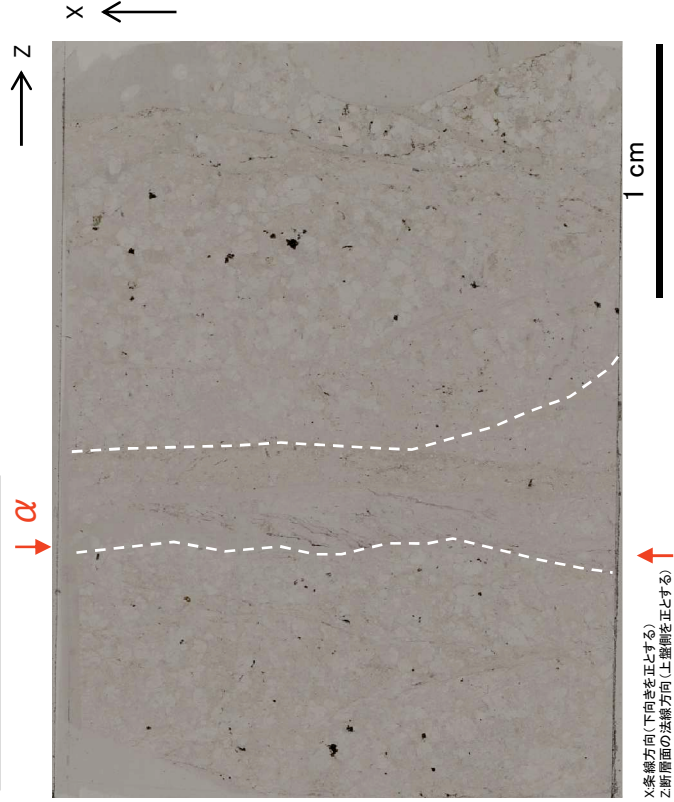
凡例

→ 断層面

----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※: 写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)

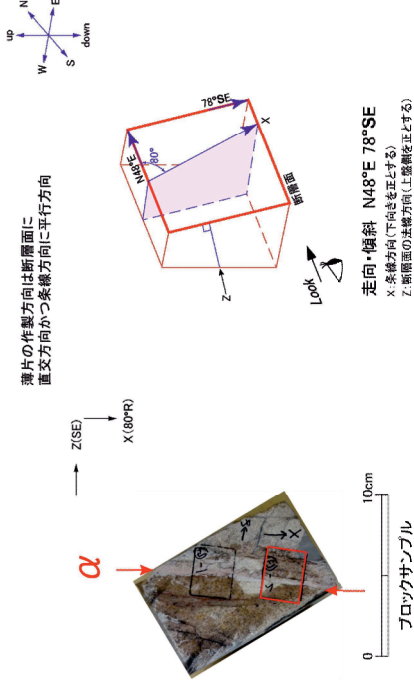
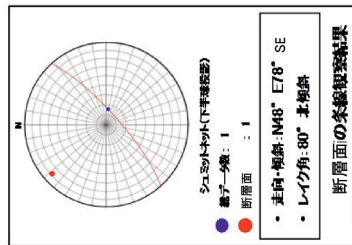


x: 条線方向(下向きを正とする)
z: 断層面の法線方向(上側側を正とする)

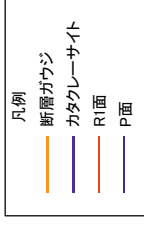
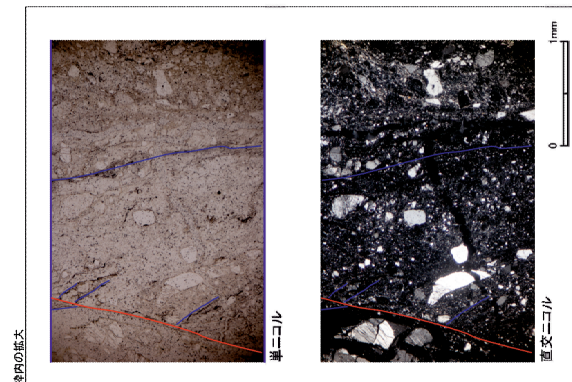
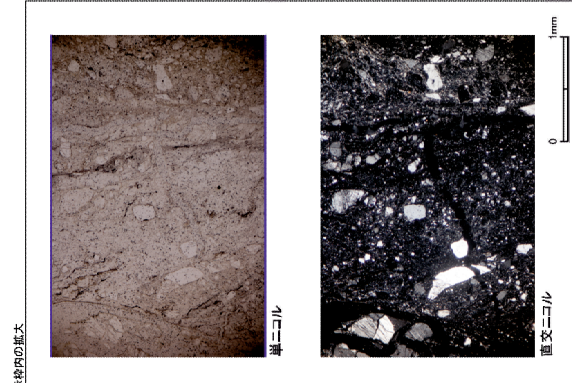
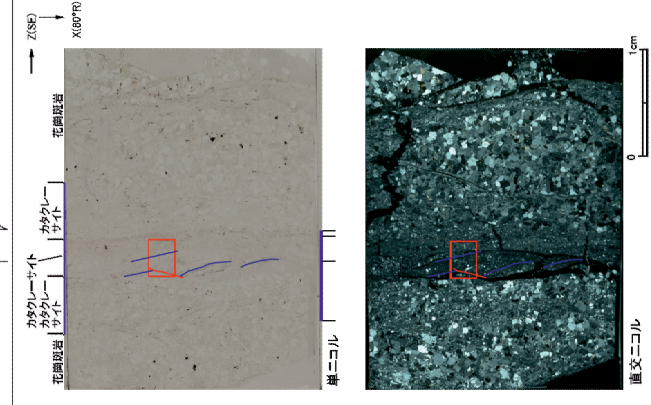
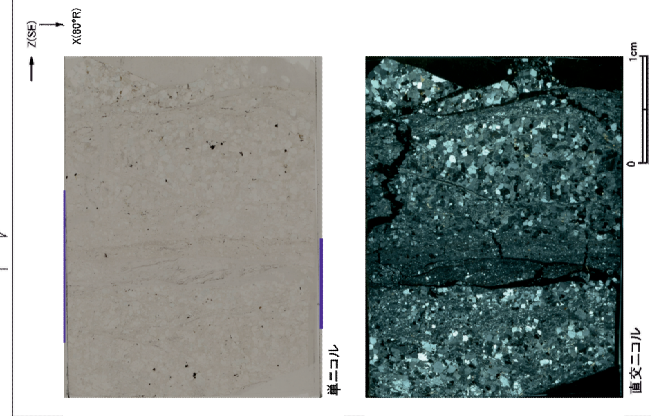
・H27-B-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。

※断層面 α は最新活動面

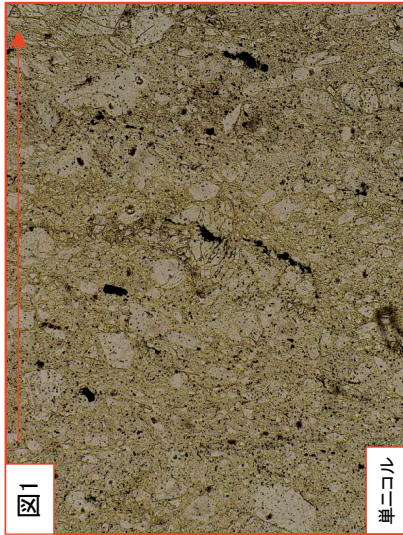
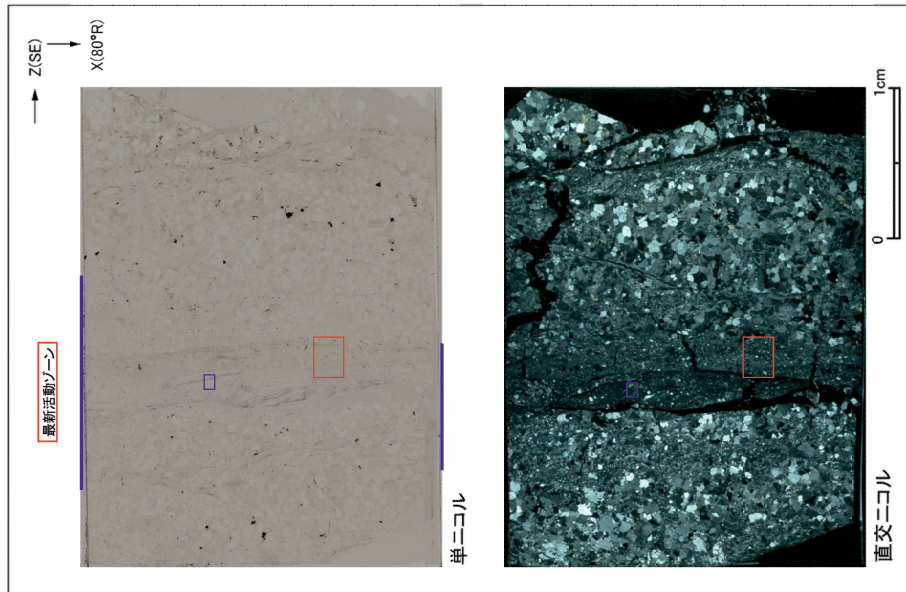


最新活動ゾーン

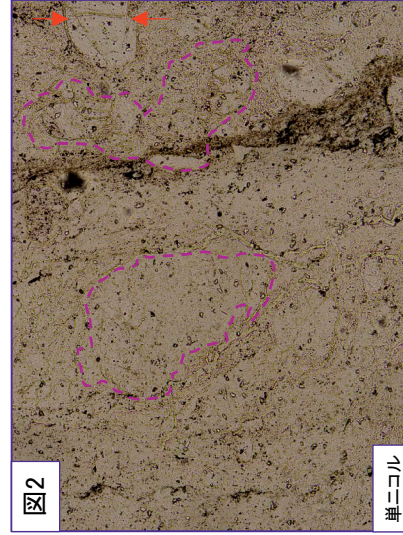


第7.4.4.340図 (3) 破砕部性状 H27-B-4 深度48.39~48.43m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

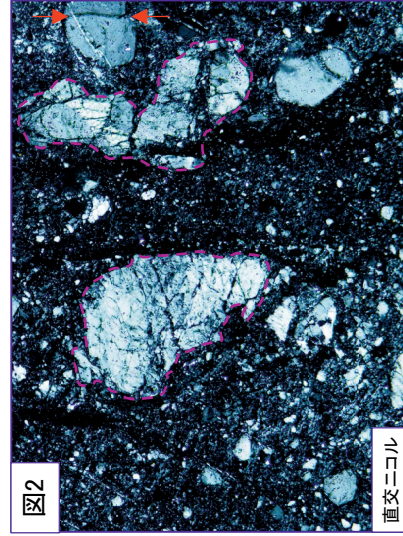
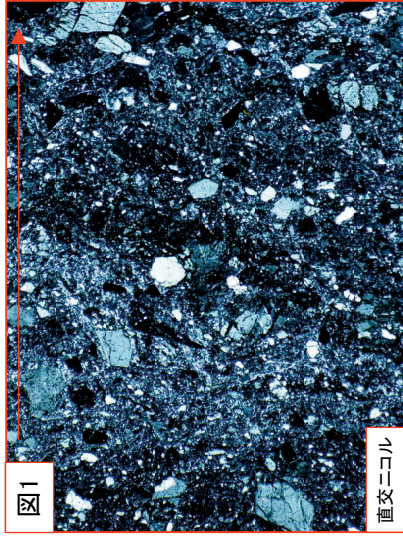
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
 - 角ばった岩片が多い。(図2)
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



赤矢印：粘土鉱物が漸移的に減少する



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



(肉眼観察結果 深度48.43m)

- 肉眼観察では、砂混じり粘土状～礫質砂状部は、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められないが、砂混じり粘土状部と礫質砂状部の境界面は波打ち直線性に乏しく、全体に硬質であることからカタクレーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由からカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された砂混じり粘土状～礫質砂状部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
無	-	-

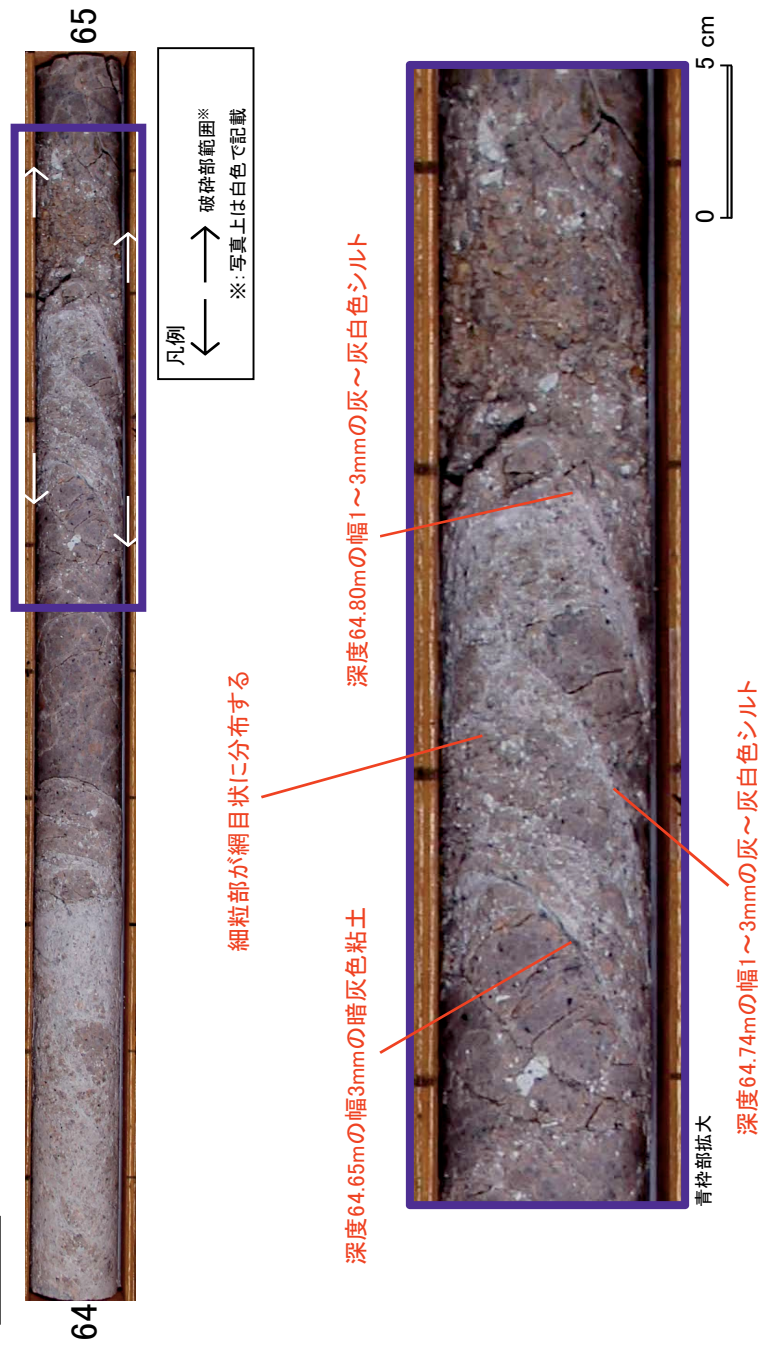
*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度64.65～64.91mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度64.65mの「暗灰色粘土を幅3mmで伴う」と記載の箇所については、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかった。粘土はやや軟質であるが、粘土が途中でせん滅し、連続性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。
- ・深度64.74m及び64.80mの「幅1～3mmの灰～灰白色シルト(Hc-2)」と記載の箇所については、細粒部は直線的に分布し、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、硬質である。これらのことからカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●64.65～64.91m：破砕部
粘土混じり礫状部 (Hj)
上端65°で直線的に連続、下端65°で不明瞭。径2～30mmの岩片主体で岩片間に幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。上端には暗灰色粘土を幅3mmで伴う。また、64.74m及び64.80mに傾斜60°で幅1～3mmの灰～灰白色シルト(Hc-2)を挟む。全体はにぶい黄橙色を呈する。

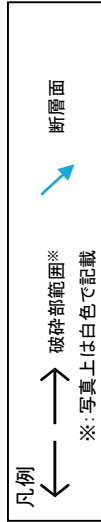
コア写真



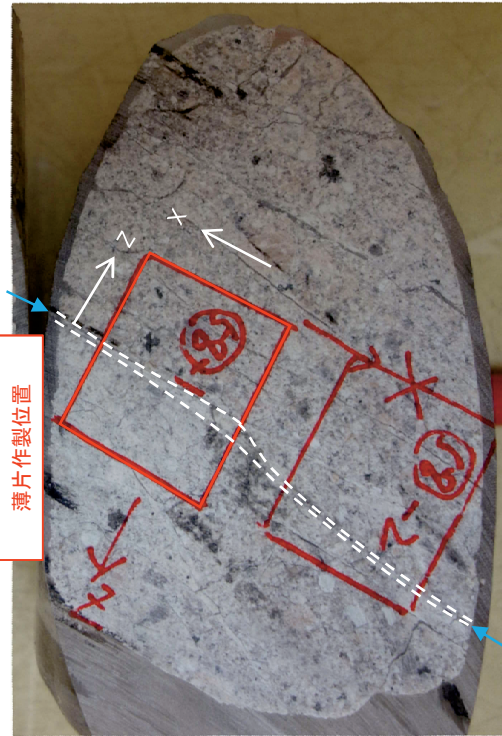
・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 β は最新活動面



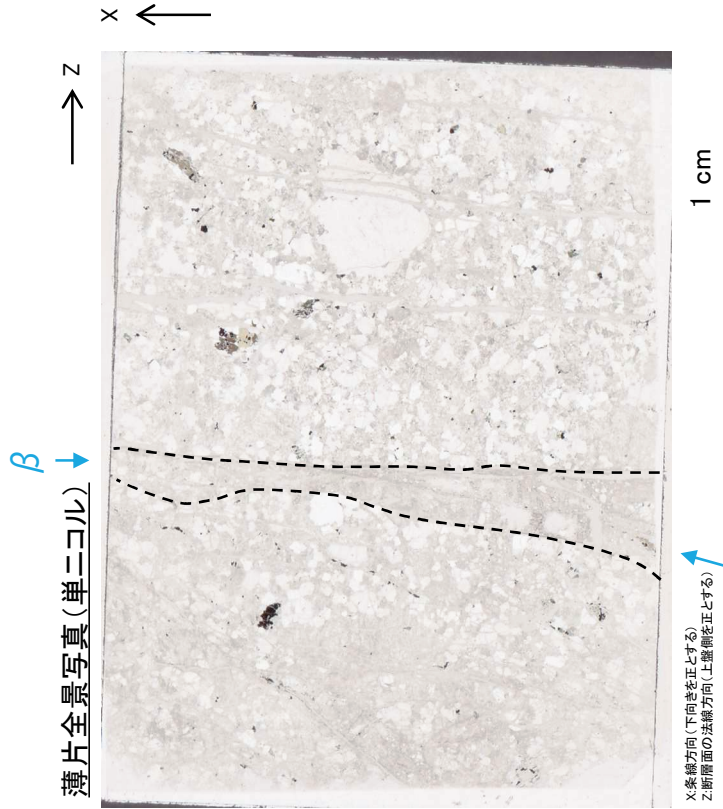
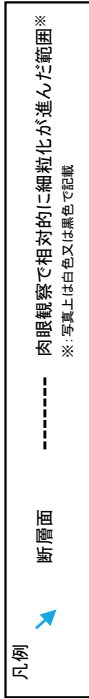
薄片作製位置写真



X: 条線方向(下向きを正とする)

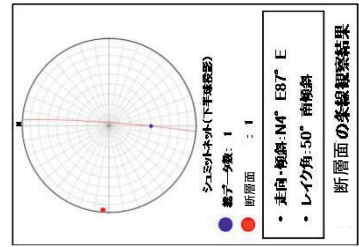
Z: 断層面の法線方向(上壁側を正とする)

※: 切断面に記載されているZ方向は誤り

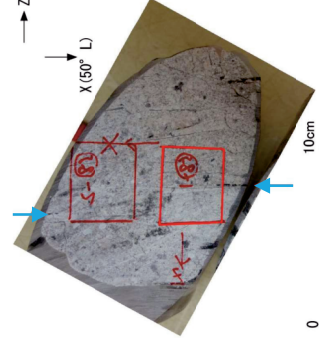


・H27-B-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

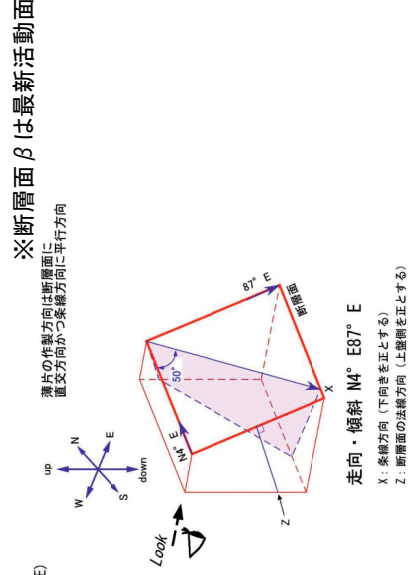
- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 断層面に沿った粘土状物は連続しない。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



断層面の条線観察結果

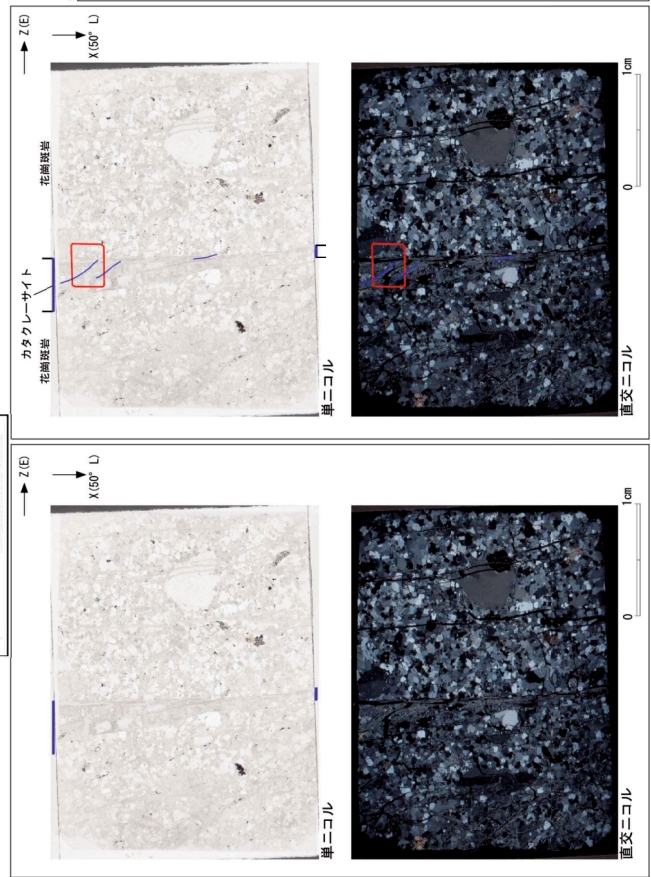


※切断面に記載しているX,Z方向は限りブロックサンプル



※断層面βは最新活動面

薄片の作製方向は断層面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R1面
P面